

アオサギ観察会

2005年6月28日



近くで見るとこんな顔をしています

アオサギの子育ても最終盤を迎え、今年もいよいよ巣立ちの季節です。サギの声で騒々しかったコロニーは、この先、日ごとに静かになっていきます。ところで、コロニーに活気を与えてきた彼らの声ですが…。「鷺は、いとみめも見ぐるし。まなこえなども、うたてよろずになつかしからねど、…」(清少納言 枕草子)。どうやら昔からサギの声の評判は良くなかったようです。たしかにきれいな声とは言い難いのですが。けれども、よく聞いていると彼らもいろいろな種類の声を持っているのが分かります。

飛んでいるときに発するのは「ギャッ」というお馴染みの一声。群れで飛ぶときによく聞かれます。一緒に飛ぶ仲間に対するコミュニケーションなのでしょうか。この声はコロニーの中からもよく聞こえてきます。コロニーから聞こえる声といえば、サギどうしが喧嘩するときの「ギャー」という喉を絞めつけられたような声。さらに、相手が捕食者となるとこの声はいっそう威圧的となり、ただならぬ雰囲気を持ってきます。



親の到着を首を長くして待つ三兄弟



精悍さが増してきた巣立ち前のヒナ

別の種類の声としては、親が巣に戻ってくるときの「グワッ、グワッ、グワッ、グワッ、グワッ」というのがあります。これは巣にいる相手に対する挨拶のようなものです。

最後に、巣にいるヒナの「カッ、カッ、カッ」というリズムカルな声。これは親に餌をねだるための特別な声です。ヒナは巣立ってしまえば親と同じように鳴きはじめますが、初めのうちはうまく声にならないようです。この時期、上空で変な声で鳴くサギがいたら巣立ったばかりの幼鳥かもしれません。